

令和4年度経営協議会における審議事項

開催日	審 議 事 項 等
(第95回) (書面審議) 5月2日(月)	1. 審議事項 (1) 本学役職員の給与改定方針(案)について (2) 国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正(案)について
(第96回) 6月6日(月)	1. 審議事項 (1) 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書(案)について (2) 令和3年度における部局等の自己点検・評価結果について (3) 令和3事業年度決算(案)について (4) 第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定について (5) 学長選考・監察会議委員の選出について 2. 討議事項 (1) 医学部附属病院の経営状況等について 3. 報告事項 (1) 中期目標の達成状況報告書(第3期中期目標期間終了時)について (2) 令和3年度福井大学卒業生・修了生の進路状況について (3) 令和4年度入学者状況について (4) 令和3年度外部資金の受入状況及び知的財産活動について (5) 福井大学基金について (6) 令和4年度国立大学法人福井大学ガバナンス・コード報告書の作成について (7) 令和4年度会計監査人の選任について (8) 令和3年度資金運用に係る報告について (9) 本学の取組みに関する最近の記事について
(第97回) 10月24日(月)	1. 審議事項 (1) 国立大学法人福井大学ガバナンス・コードの公表について (2) 福井大学職員就業規則等の一部改正(案)について 2. 討議事項 (1) 医学部附属病院の経営状況等について 3. 報告事項 (1) 第4期の学長所信について (2) 福井大学基金について (3) 令和4年度上半期資金運用に係る報告について (4) 本学の取組みに関する最近の記事について
(第98回) 1月23日(月)	1. 審議事項 (1) 令和4年度以降の本学役職員の給与改定方針(案)等について ・国立大学法人福井大学役員給与規程の一部改正(案)について ・国立大学法人福井大学職員給与規程等の一部改正(案)について (2) 令和4年度福井大学収入支出予算の見通し及び繰越計画について(案) 2. 討議事項 (1) 医学部附属病院の経営状況等について

	<p>3. 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度政府予算案等内示について (2) 本学の取組みに関する最近の記事について
<p>(第99回) 3月17日(金)</p>	<p>1. 審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 福井大学カーボンニュートラル推進本部の設置(案)について (2) 大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科の改組について (3) 令和4年度における部局等の自己点検・評価結果について (4) 福井大学職員就業規則等の一部改正(案)について (5) 令和5年度学内予算配分(案)について (6) 令和5年度長期借入金および償還計画にかかる認可申請(案)について <p>2. 討議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 医学部附属病院の経営状況等について <p>3. 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度の運営体制について(案) (2) 次期経営協議会について (3) 本学の取組みに関する最近の記事について

第95回国立大学法人福井大学経営協議会書面審議議事要旨

発送 令和4年5月2日（月）

承認 令和4年5月17日（火）

（学外委員 9名） 伊藤正一、江守康昌、川田達男、小松弥生、笹田昌孝、鈴木寛、高岡信也、
中村保博、藤林康久

（学内委員 8名） 上田孝典、安田年博、末信一朗、松木健一、花島信、大嶋勇成、明石行生、
内木宏延

審議事項

1. 本学役職員の給与改定方針（案）について
2. 国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について

資料に基づき、書面審議した結果、委員からの異論は無く、原案のとおり了承された。

第96回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和4年6月6日（月）13：30～15：20

場 所 福井大学本部棟2階 会議室（文京キャンパス）

出席者（学外委員は全員Webにて出席）

（学外委員 6名） 伊藤正一、川田達男、小松弥生、笹田昌孝、高岡信也、藤林康久

（学内委員 7名） 上田孝典、安田年博、松木健一、花島信、大嶋勇成、明石行生、
内木宏延

欠席者 江守康昌、鈴木寛、中村保博、末信一朗

陪席者 峠岡監事、山本教育学部長、藤枝医学部長、福井工学部長、
岡崎国際地域学部長、舟木参与、窪田参与、及び関係部課長等

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、13名の出席により定足数を満たしていることが確認された。（定足数：委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条）

2. 第94回会議及び第95回会議（書面審議）議事要旨の確認について

学長から、第94回会議及び第95回会議（書面審議）議事要旨について確認があり、了承された。

3. 審議事項

（1）第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）について

理事（教育、評価担当）から、資料1に基づき、第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）について説明があり、今後の修正等については学長に一任することで了承された。

—主な意見—

（○学外委員、□学内委員意見。以下同じ）

○ 「クラウドファンディングによる資金獲得」については、「財務内容の改善」の項目ではなく、「学内シーズの広報と育成」といったカテゴリーになるのではないかと。

□ 学内の既存の資金を使うことなく、当該プロジェクトの実施を可能とするという意味で、間接的に財務基盤の強化に繋がるものとして記載している。

□ クラウドファンディングの学内シーズの収集について、現在「研究ファーム」という3段階のレベルを設けた組織作りを進めている。この2段階目から、3段階目への移行にあたっては、クラウドファンディングの活用を検討している。

○ 少数の人が名前を挙げた状態で行う「寄附」と、インターネット等を活用し、匿名で多くの人から資金を募るクラウドファンディングとは方向性が若干異なる。大学の中で積み上げていき、活動できたものを提示するのも一つだが、もう少し前の段階から応援してもらうルートがあっても良いのではないかと。

（2）令和3年度における部局等の自己点検・評価結果について

理事（教育、評価担当）から、資料2に基づき、令和3年度における部局等の自己点検・評価及び外部評価に対する全学内部質保証委員会における確認結果について説明があり、了承された。

—主な意見—

- 「概ね適切」の評価であった項目について、特筆すべき意見があったのか。
- 評価結果によると、例えば、対応が少し理念的で、具体性が若干乏しいというような意見が付されているものがある。ただし、これでも十分な評価であり、問題点を注意するという外部評価者の観点からすると、より適切な対応が望ましいという意見である。

(3) 令和3事業年度決算（案）について

理事（総務・財務担当）から、資料3に基づき、令和3事業年度決算（案）についての説明、及び本決算（案）が会計監査人及び監事の監査を受けていることの報告があり、了承された。

(4) 第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定について

理事（企画戦略担当）から、資料4に基づき、第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定についての説明があり、今後の修正等については学長に一任することで、了承された。

—主な意見—

- 地域イノベーション関与指数の設定とストロー効果との関連が理解しにくい。
- ストロー効果については、敦賀までの新幹線延伸を控えた福井県の嶺南地域において、関西圏に飲み込まれてしまうのではないかという不安があり、イノベーション関与指数の指標を達成するにあたり難しい状況にあるということを強調する意味で記載している。
- 評価指標(1)-2-B,Cについて、Bのプロジェクト件数目標を「3倍以上」とする一方で、Cでは受入金額目標を「現状より増加」としている。もう少し整合性がとれないか。
- Bのプロジェクト件数については、本学と地域の協働によってどれだけのプロジェクト数を実行できるかという指標であり、Cの受入金額については、共同研究等の金額を挙げている。Bには、地域からの要望に基づく社会貢献や本学の多職種連携教育の一環として取り組むプロジェクト等、金額が発生しないプロジェクトも含んでいる。
- 多職種連携の実装が「他に例をみない先進的取組」とあるが、例えば福井大学の国際地域学部や最近多く見かける文理融合学部は多職種連携教育の実装ではないのか。
- 本学が考える多職種連携教育は、まさに多職種、職業の違う人たちが連携していく素地を作り出していくもの。専門性が高まれば高まるほど、専門の中での細分化が進んでしまうため、職種を超えて連携する能力はより重要になると考えている。このような教育を、部局や職種を超えて、早い時期から取り組むことを念頭に目標を掲げている。

(5) 学長選考・監察会議委員の選出について

理事（総務・財務担当）から、資料5に基づき、福井大学学長選考・監察会議委員について、現在の4名に加えて、1名を追加選出する必要があることの説明があり、委員から小松委員を推薦する旨の発言があり、了承された。

4. 討議事項

(1) 医学部附属病院の経営状況等について

副学長（医療担当）から、資料6に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

5. 報告事項

(1) 中期目標の達成状況報告書（第3期中期目標期間終了時）について

理事（教育、評価担当）から、資料7に基づき、中期目標の達成状況報告書について報告があった。

—主な意見—

- 新型コロナウイルス感染症への対応として、学生の授業についてどのように対応しているのか。
- 本学においては、基本的に対面授業を実施している。ただし、各講義室における収容人員の上限を決め、それを超える場合はオンラインで対応している。本学の学生にも多くの罹患者が出ているが、各学生の状況等を総合的に判断し、今のところ講義を中止したり、キャンパスをロックアウトしたりというような状況にはなっていない。

(2) 令和3年度福井大学卒業生・修了生の進路状況について

理事（教育、評価担当）から、資料8に基づき、令和3年度福井大学卒業生・修了生の進路状況について報告があった。

—主な意見—

- 地元、福井県への就職については、福井県でもそのように望まれており、それはそれで良いと思うが、一方で、やはり国立大学として、もっと広く県外あるいは海外に行く等、そういった人材も輩出されても良いのではないかと思う。

(3) 令和4年度入学者状況について

理事（教育、評価担当）から、資料9に基づき、令和4年度入学者状況について報告があった。

(4) 令和3年度外部資金の受入状況及び知的財産活動について

研究・地域連携推進部長（心得）から、資料10に基づき、令和3年度外部資金の受入状況及び知的財産活動について報告があった。

(5) 福井大学基金について

学長から、資料11に基づき、福井大学基金の状況について報告があった。

(6) 令和4年度国立大学法人福井大学ガバナンス・コード報告書の作成について

理事（総務・財務担当）から、資料12に基づき、令和4年度国立大学法人福井大学ガバナンス・コード報告書の作成について報告があった。

(7) 令和4年度会計監査人の選任について

理事（総務・財務担当）から、資料13に基づき、令和4年度会計監査人の選任について報告があった。

(8) 令和3年度資金運用に係る報告について

財務部長から、資料14に基づき、令和3年度資金運用状況について報告があった。

(9) 本学の取組みに関する最近の記事について

学長から、資料15の記事について、お目通し願いたい旨、案内があった。

6. その他

(1) その他

学長から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

—主な意見—

- 福井大学では、産学官金が一体となって、また、積極的に応援する対象として、女性、若手、外国の人を掲げており、このような方々をただ単に雇用するのではなく、育てるということを掲げている。優れた研究の成果等、あるいは色々な観点からの成果を上げるためには、優れた人材は何よりも大事であり、そうした点で、福井大学は将来に向けて、非常に大事な視点を持ち続けており、これからの発展を心から期待している。

7. 閉会

学長から謝辞が述べられ、10月以降の開催日(10月24日(月),1月23日(月),3月17日(金))の案内があり、閉会した。

第97回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和4年10月24日（月）13:40～15:05

場 所 福井大学本部棟2階 会議室（文京キャンパス）

出席者

（学外委員 5名） 伊藤正一、江守康昌、小松弥生、笹田昌孝、藤林康久

（学内委員 8名） 上田孝典、安田年博、松木健一、末信一朗、花島 信、大嶋勇成、明石行生、
内木宏延

欠席者 川田達男、鈴木 寛、高岡信也、中村保博

陪席者 峠岡監事、山本教育学部長、藤枝医学部長、福井工学部長、岡崎国際地域学部長、
木村国際地域マネジメント研究科長、舟木参与、窪田参与、及び関係部課長等

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、13名の出席により定足数を満たしていることが確認された。（定足数：委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条）

2. 第96回会議議事要旨の確認について

学長から、第96回会議の議事要旨について確認があり、了承された。

3. 審議事項

（1）国立大学法人福井大学ガバナンス・コードの公表について

学長から、資料1に基づき、国立大学法人福井大学ガバナンス・コード報告書について、説明があり、今後の修正等については学長に一任することで了承された。

（2）福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について

理事（総務・財務担当）から、資料2に基づき、令和4年度診療報酬改定に伴う、福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について、説明があり、了承された。

4. 討議事項

（1）医学部附属病院の経営状況等について

副学長（医療担当）から、資料3に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

5. 報告事項

（1）第4期の学長所信について

学長から、資料4に基づき、第4期の所信について報告があった。

—主な意見—

（○学外委員、□学内委員回答。以下同じ）

○ グローバルな点について述べられているが、オンラインでの海外大学との交流というのも非常に大事である。また、留学生の受け入れについては、現状そう簡単にはできないところであるが、渡日したいという留学生のニーズはあると思うので、これも一つのチャンスであり、そういったところに配慮して前向きに考えていくことはいかがか。

□ 本学でのオンラインでの交流は、アメリカの協定校との実績がある。また、本学の第4期中期目標・中期計画にも優秀な留学生のリクルート、数を増やすということを目指している

ので、本学では、一番多いときでも 200 名ぐらいであったが、できたらその時点に戻れるよう目指して取り組んでいきたい。

(2) 福井大学基金について

学長から、資料5に基づき、福井大学基金の状況について報告があった。

(3) 令和4年度上半期資金運用に係る報告について

理事（総務・財務担当）から、資料6に基づき、令和4年度上半期資金運用について報告があった。

—主な意見—

- 現在の運用は、ローリスク過ぎるので、もう少し検討いただけたらと思う。
- 今後は、定期預金以外の比率を高めていきたい。

(4) 本学の取組みに関する最近の記事について

学長から、資料7の記事について、案内があった。

6. その他

(1) その他

学長から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

—主な意見—

- 附属病院の IS09000 の実施について、患者さんを含めた顧客満足の向上を目指しているとのことで、大変心強く感じた。
- 教員のおかれている状況について、教員養成また教員の再教育に実績のある福井大学としてはどのように行っているのか、あるいは、今後貢献できるとすれば大学としてどのように貢献していくのか聞きたい。
- 本学の現状は、教育学部から教員採用試験を受ける学生数は大体6～7割であり、3割ほどの学生は採用試験を受けていない。これは、全国の国立大学と同じような数字だと思うが、やはりもう少し割合を高くしなければならない。ただ、入学段階で既に教員を志望していない学生も2～3割いる。入学前の高校での進路指導の中で、地元の大学へという意味合いで教育学部を目指す学生もかなりいるという実態もある。こういったことに関しては、やはり高大接続をしながら、今後高校と連携を深めていくということが必要である。その他、大学と教育委員会の連携に関しては、全国的に見ても福井は一番進んでいる県であると思われる。福井県が行う悉皆教員研修なども、既に大学と共同で実施している。また、福井県の管理職の3～4割は、本学の教職大学院を修了して、管理職になっているので、連携等を含めた全体のシステムとしては、全国的に見てもうまく動いているのではないかと思う。
- 教員養成のフラッグシップ大学ということで、非常に高い実績を上げていると思っている。その実績、福井大学のやり方をやはり全国の他大学にも広めていく必要がある。
- 学長の今後の抱負を聞き、これから楽しみだというのが全体の印象であり、特に、「物」ではなく「人間力」であるという意見に同感であり、体の健康ではなく心の健康が世界的に一番大きな課題になっていると感じる。そうした観点から考えると、「人」と「社会」の関係に加えて、「環境」という視点を加えた方が、よりよいのではないかと思う。
最後に、これからの方針で産学の連携ということを言われたが、産官学という3者の共同を、

企画立案の段階から、官のアドバイスも受けながら、そして最終的にいいものが人に届くまでを見届けるといような方針で進めていただくと、きっと今計画されているものが福井県から全国に向けて、世界に向けて発信していく方針が見えるのではないかと、非常に大きな期待を持っている。

- 研究職あるいは大学教員を志望する人が減ってきているという印象を強く受けている。福井大学に限ったことではないが、大学の魅力というか、優秀な人が大学に行きたいと思わせるインセンティブを提供しきれていない状況があるのではないかと。学長の目標を実現するためには、我々の次の年代の中でのアクティビティが必要である。どうしたら今の中堅あるいは若手の人々を大学に向かせることができるか、ぜひ何かフラグを上げていただきたい。

7. 閉会

学長から謝辞が述べられ、次回開催日（1月23日（月））の案内があり、閉会した。

第98回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和5年1月23日（月）13:30～15:00

場 所 福井大学本部棟2階 会議室（文京キャンパス）

出席者

（学外委員 5名） 伊藤正一、川田達男、小松弥生、笹田昌孝、藤林康久

（学内委員 8名） 上田孝典、安田年博、末信一朗、松木健一、花島 信、大嶋勇成、明石行生、
内木宏延

欠席者 江守康昌、鈴木 寛、高岡信也、中村保博

陪席者 峠岡監事、佐野監事、山本教育学部長、藤枝医学部長、福井工学部長、
岡崎国際地域学部長、木村国際地域マネジメント研究科長、舟木参与、窪田参与、
及び関係部課長等

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、13名の出席により定足数を満たしていることが確認された。（定足数：委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条）

また、学長及び理事（研究、産学・社会連携担当）から、本学における研究活動の不正行為疑いに係る調査結果について、報告があった。

2. 第97回会議議事要旨の確認について

学長から、第97回会議の議事要旨について確認があり、了承された。

3. 審議事項

（1）令和4年度以降の本学役職員の給与改定方針（案）等について

理事（総務・財務担当）から、資料1に基づき、令和4年度以降の本学役職員の給与改定方針及びそれに伴う諸規則等の一部改正等について説明があり、審議の結果、了承された。

—主な意見—

（○学外委員、□学内委員意見。以下同じ）

○ 人事院勧告はいつ出るのか。現在給与の引上げが非常に問題になっており、民間企業は大体4月からの引上げだが、公務員の場合は若干遅れるということか。

□ 例年8月に勧告が行われ、その後給与法の改定が国会等の審議を経て、11月中旬頃に決定するというスケジュールである。人事院勧告が遡って4月からの適用となるので、本学も引上げの部分については、財源がある限り遡って支給している。

○ 博士課程修了者等の初任給基準の見直しについて、これはぜひやっていただきたいと思うが、この博士課程修了者と、博士学位取得者というのはまた別かと思う。このあたりはどうか。

□ 博士課程修了者の処遇については、国家公務員の総合職の初任給基準について、博士課程修了者の給与を引き上げるような改正を検討していると聞いている。本学においても、国の基準に則り対応していきたい。

(2) 令和4年度福井大学収入支出予算の見通し及び繰越計画について（案）

理事（総務・財務担当）から、資料2に基づき、令和4年度福井大学収入支出予算の見通し及び繰越計画について説明があり、審議の結果、了承された。

4. 討議事項

(1) 医学部附属病院の経営状況等について

副学長（医療担当）から、資料3に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

—主な意見—

- 令和4年度の実績の説明があったが、令和5年度に向けて、電気料も含め物価が高騰することになり、相当大的な影響があるのではないかと考えている。その辺りの計画はこれからか。
- 令和5年度の計画については、これから検討に入りたいと考えている。コロナ対策についても、福井県は第5類に移行しやすいよう、既にかかなり医療体制が変わってきているため、他県に比べ、さほど大きな混乱はないと思われる。しかし、やはり第5類になると、最初はかなり爆発的な感染拡大リスクがあり、そのことで病床稼働率がどういった影響を受けるのかが見えない。そのため、今回の第8波でどれだけ患者が増えるかによって考えており、第8波の感染状況、収束傾向を見ながら判断しなくてはならない。
- 研修医の確保について、危機的な状況にあるのではないかとと思うが、危機感を持って対応しているのか。
- 非常に危機感を持っている。学生の病院実習については、コロナ禍により様々な制限をかけざるを得なかったが、できるだけ制限しないよう、学生にマスクやフェイスシールドを配付するなど、病院実習が影響なく実施できるようにしている。このように、現状では可能な限り病院スタッフと学生が接触できる機会を増やすしか手がない状況である。

5. 報告事項

(1) 令和5年度政府予算案等内示について

理事（総務・財務担当）から、資料4に基づき、令和5年度政府予算案等の内示について報告があった。

(2) 本学の取組みに関する最近の記事について

学長から、資料5の記事について、案内があった。

6. その他

(1) その他

学長から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

7. 閉会

学長から謝辞が述べられ、次回開催日（3月17日（金））の案内があり、閉会した。

第99回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和5年3月17日（月）13:30～15:05

場 所 福井大学本部棟2階 会議室（文京キャンパス）

出席者

（学外委員 7名） 伊藤正一、川田達男、小松弥生、笹田昌孝、鈴木寛、中村保博、藤林康久

（学内委員 8名） 上田孝典、安田年博、末信一朗、松木健一、花島 信、大嶋勇成、明石行生、
内木宏延

欠席者 江守康昌、高岡信也

陪席者 峠岡監事、佐野監事、藤枝医学部長、福井工学部長、岡崎国際地域学部長、
木村国際地域マネジメント研究科長、舟木参与、窪田参与、及び関係部課長等

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、15名の出席により定足数を満たしていることが確認された。（定足数：委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条）

2. 第98回会議議事要旨の確認について

学長から、第98回会議の議事要旨について確認があり、了承された。

3. 審議事項

（1）福井大学カーボンニュートラル推進本部の設置（案）について

理事（研究、産学・社会連携担当）から、資料1に基づき、福井大学カーボンニュートラル推進本部の設置（案）について説明があり、審議の結果、了承された。

—主な意見—

（○学外委員、□学内委員意見。以下同じ）

○ 設置にかかる予算の獲得状況や使用計画について教えてほしい。

□ 文部科学省への概算要求の組織整備事業により、年間6,500万円が本学に配分される予定である。必要経費に関しては、これから新規で雇用する教員の職位等にもよるため、詳細は未定である。

○ 非常に時機を得た取組である。社会実装には、新しい技術革新を作る研究、実用化、社会教育の3つが必要となるが、大学の方針として、どこに軸足を置くのか。

□ 大学の本質としては、基礎的な研究は不可欠である。カーボンニュートラルは社会実装が非常に重要であるが、これだけが大学のミッションではないため、今ある研究シーズを発展させながら、企業や自治体と手を組み社会実装化を進めていくこととなる。どれか一本を軸とするのは難しい。

（2）大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科の改組について

理事（企画戦略担当）から、資料2に基づき、大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科の改組について説明があり、審議の結果、了承された。

- (3) 令和4年度における部局等の自己点検・評価結果について
理事（教育、評価担当）から、資料3に基づき、令和4年度における部局等の自己点検・評価結果について説明があり、審議の結果、了承された。
- (4) 福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について
理事（総務・財務担当）から、資料4に基づき、国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について説明があり、審議の結果、了承された。
- (5) 令和5年度学内予算配分（案）について
理事（総務・財務担当）から、資料5に基づき、令和5年度学内予算配分について説明があり、審議の結果、了承された。
- (6) 令和5年度長期借入金および償還計画にかかる認可申請（案）について
理事（総務・財務担当）から、資料6に基づき、令和5年度長期借入金および償還計画にかかる認可申請について説明があり、審議の結果、了承された。

4. 討議事項

- (1) 医学部附属病院の経営状況等について
副学長（医療担当）から、資料7に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

—主な意見—

- 当院が高度被ばく医療支援センターに指定されたことで、設備・人員及び教育にかかるコストに対する措置はどの程度期待できるか。
- 運営費及び人件費の一部は国から支給される。整備を予定しているホールボディ・カウンタ（体内の放射性物質量を測定する装置）の予算等、原子力規制庁への施設整備要求を今後検討していく。

5. 報告事項

- (1) 令和5年度の運営体制について（案）
学長から、資料8に基づき、令和5年度の本学運営体制について報告があった。
- (2) 次期経営協議会について
学長から、資料9に基づき、令和5年度の経営協議会委員（案）について報告があった後、来期以降、本学が議論・検討すべきテーマ等について、学外委員に対して意見聴取があった。

—主な意見—

- 9月の定例県議会において、将来県内企業で活躍する理系人材を県内大学で育成する取組が必要だという議論があった。方策として、県内高校から県内大学への進学者を増やすこと、また、高校の課題解決型学習に大学の教員が出向くことで、高大の連携を強めるといった取組があるが、このような探究的な学びを評価する総合型選抜入試の割合についても、国立大学協会が掲げる「入学定員の30%」まで拡大することを検討いただきたい。

- 今年度、高大接続の取組をさらに拡大した結果、工学系の県内出身者は昨年度よりも増加しており、県内高校からの進学者増加という要望には、対応していると考えている。
- 施設の相互利用や物品の共同購入、教養科目の共同開講等、県内大学が連携することで、効率化を図れないか。福井県がその間に立ち、福井大学にはリーダーとして、他の大学を巻き込んで議論していきたい。
- ふくいアカデミックアライアンスにおいて、教養科目の共同開講を行ってきたが、更なる大学間の連携と効率化を図るために、科目数の増加について議論を進めている。
- カーボンニュートラルや高度被ばく医療支援センターに関して、海外と連携し情報を得ることで、中長期的な改善を目指すことが可能になるのではないか。
- 例えば、超臨界二酸化炭素利用無水染色技術の研究でも、本学はかなり以前から海外の研究者と連携しながら実用化を目指してきたため、他分野でも可能だと考えている。カーボンニュートラルの実装化に関しては、モンゴルやバングラデシュ等での実例があり、地元だけでなくグローバルな展開を行っている。
- 国立大学の法人化から18年が経過しており、法人化の趣旨に立ち返って、福井大学としてやるべきことを今一度精査すべき時期ではないか。
- 学長を中心に策定した福大ビジョン2040について、進捗状況等を本会議で報告いただき、特に課題と感じている部分について、投げかけてもらえると良い。
- これまでは、中期目標・中期計画の達成に注力してきたが、福大ビジョンの進捗についてもぜひ今後考えていきたい。
- これまで福井大学と関わる機会があまりなかった学外委員も居り、コロナ禍で来学の機会が減少していることを踏まえて、年に1回程度、大学の研究施設などの見学会を実施するとよいのではないか。
- 今後、新型コロナウイルスにかかる状況が好転していけば、ぜひ実施を考えたい。
- カーボンニュートラル推進本部について、企画立案の段階から産学官が協働して参画し、到達度を共有することで、その成果が住民・国民まで届くことを期待している。
- 3年間のコロナ禍において実施できなかった事項を洗い出し、その復旧や戦略の再設定を行うと良いのではないか。また、本会議の運営について、大学内でまだ固まっていない事項に対して、様々な立場からの意見を共有できるような、意見交換の場にできると良い。
- 会議の内容について、アジェンダを作成し、形式的なものは簡略化していくことを考えている。
- 少子化により入学者が減り、入学生のクオリティが下がっている一方で、卒業生のクオリティは要求されている。以前とは全く次元が異なる教育を要求されており、福井大学がどのような教育を行っていくのか、真剣に検討する時期ではないか。

(3) 本学の取組みに関する最近の記事について

学長から、資料10に基づき、本学の取組みに関する最近の記事について報告があった。

6. その他

(1) その他

学長から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

7. 閉会

学長から謝辞が述べられ、次回開催日は6月中旬で日程照会中である旨、案内があり、閉会した。